

## 第四章 生 物

### はじめに

生物は気候や地質あるいは環境に強く影響されるものである。気候、地質は地球の大自然の法則で仕方がないが、これに追い打ちをかけるものに人為的な災害がある。

特に第二次世界大戦後は、人為的な原因によって自然環境の変化が急速に進み自然界の生態調和が乱れて来た。身近なところでは農薬使用や農家経営の機械化もその一つである。

農耕地の土質まで変えて、微生物に至るまで死滅した。農薬の大量使用により大気は汚染し、排ガスのため昆虫は花粉の媒介が困難になり結局しない植物が出て来た。

こうした事態に生物の頂点に立つ人間は、他の生物と共存できる地球に取り戻す責任がある。いま全世界にわたってこの主張実践がなされつつあるのはうれしいことである。

犀川町は郡内他町に比べ、動植物の存在が豊富な自然を保有している過疎地域ではあるが、社会的進歩の例外地ではなく多かれ少なかれ、山林開発・道路・宅地・水田等の整備変遷も進み、種々の自然破壊を余儀なくされている。そうした中でもこの豊富な自然界との触れあいと理解

を忘れないよう心掛けるべきだろう。

以下に本町内に生息する生物（在時いたものも含む）を掲記する。ただし広範囲にわたるので調査漏れもあり、記していないから存在しないというわけではない。

### 第一節 動 物

#### 一 哺乳類

ネズミ ノネズミ・イエネズミ・ドブネズミ・ハツカネズミ、ダム環境調査ではホンドアカネズミの生息も確認されたし、種々のものがはびこっている。いずれも人間生活になじまない存在である。

イノシシ 山奥に生息する動物とのみ考えられていたが、かえって英彦山附近には最近少ないと聞く。むしろ近年は人里近い山中から出没し、農作物に甚大な被害を及ぼしている。一方、マムシをとるのかそれが少なくなった。

なお、ダム環境調査によれば以上ネズミ、イノシシのほか、左の哺乳類が確認されたところ。すなわちチョウセンイタチ・ホンドタヌキ・キウシュウノウサギ・コウベモグラなどのほか一二種とある。これらの動物はダムの湛水により一部の生息場所は消滅するが、平野・森林に移動すると考えられると報告されている。

右一二種の中にキツネ・テン・アナグマなども含んでいるのではないかと思われるが省略する。

サル 犀川町内に常に生息していないが、香春岳の野猿が群れから離れて迷い込み思わぬ人騒がせをする。

シカ 以前伊良原の山中ではよく見かけたと聞く。今は数が少ないと思われるが猟師の話によれば、帝釈山や城井・伊良原の郡境山系には出没して猟の対象になっているそうである。

コウモリ 昼は洞穴や大木のうろに群居しているが夜になると餌を求めて活動する。以前は人家へ飛び込み驚かすことがあったが、最近昆虫も少なくこれも少なくなった。

ムササビ 低山の森林や大木のうろ、あるいは人家の屋根裏に棲む。四肢の間に皮膜がありこれで高い木から低い木へ滑空する。距離は三〇〜四〇米、夜行性であるからめったに人目に付かない珍動物であるが現に犀川町にいるので特記する。帆柱の久保田剛氏の土蔵の屋根裏に巣をかまえてもう一〇年近くなるといふ。子を一匹育てていたが遊んでいるうち屋根から落ち犬に捕まえられ死んだので、久保田氏はこれを剥製にし伊良原中学校に寄附保存されている。

## 二 鳥 類

### (一) 人里近く棲むもの

スズメ 人の住む所だけに生息する。人が村を去ればいなくなる。屋根瓦の隙間などを利用して巣を作っていたが、今はそうもいかず竹藪や樹林に棲むことが多い。半益鳥。

ツバメ 渡り鳥、雀と同じく人の住む所に居る。飛行専門で歩行はできない。益鳥。

カラス ハンボソカラス・ハンプトカラス・ミヤマカラスの三種に分けられる。犀川町にいるのは前二者である。秋ごろ群れをなして飛来する。最近農作物を荒らすこと甚だしい。害鳥。

ハト カラスと反対にやさしく平和の象徴とされる。元来は野鳥だが社寺・公園などで人に親しむ。山に行くとキジバトの鳴くクウクウという声をよく聞く。

モズ 低山や村里に点在する林に棲む。さえずりはカン高く朝寝坊を驚かす。

ヒバリ 麦畑の少なくなった犀川町ではめったに鳴き声も聞けなくなったが、絶滅したとは思われない。

ジョウビタキ 渡り鳥の冬鳥。尾を振る習性があり、羽に白紋がある。この鳥も最近少ないのかあまり見かけない。

セキレイ ジョウビタキに似て尾を振る。

### (二) 原野・灌木林に棲むもの

キジ 四季を通じて平地原野の明るい林に棲む。尾が長く羽も美しいので剥製にされる。

コジュケイ 中国原産。日本に移入されてから一〇〇年に満たないが急速に繁殖した。昭和十七年ごろ当地方に放鳥された。その子孫だろ山に行くと足元から飛びたつて驚かされる。

メジロ 目の回りに白い輪がある可愛らしい小鳥、鳴き声もよいので飼育される。

ウグイス 春になると里に下り美しい声で鳴く。笹鳴きと呼ばれ日本